

第23回 地域療育講習会

音波歯ブラシを用いた 口腔ケアの一症例

府中療育センター 看護師
佐藤さち

重症心身障害者の口腔内 の状態・特徴

- ▶ 抗てんかん薬の長期内服による歯肉増殖（肥大）
- ▶ 口腔粘膜・顔周囲への触刺激に過敏反応がある（過開口・開口困難）
- ▶ 虫歯や口内炎などがあっても痛みを訴えられない



介護者による**毎日の観察**が大切

病棟内でよくある 口腔内・口腔ケアの問題点



A氏の 口腔内・歯ブラシ時の問題点

- 歯ブラシを嫌がる（手で払う、首ふり）
- 奥歯を磨くとき嘔吐反射が出る
- 緊張があり口を大きく開けすぎてしまう
⇒嘔吐反射が出る
- 口の中がネバネバしている
- 歯茎が腫れぼったい
- 口を開けているため口の中が乾燥している

歯科衛生士へ相談



全体的に歯茎は腫れている

磨きづらい内側の奥



歯茎の腫れと歯石



手用歯ブラシと 音波歯ブラシの違い

手用歯ブラシ

歯の凸凹にブラシを合わせて小刻みに動かしながら磨く

何回か擦りながらプラーク（歯の汚れ）を落とす



口腔ケアの統一が難しい

音波歯ブラシ

- ▶ 歯の表面に軽く当て、奥歯から前歯にゆっくり動かす
- ▶ 振動によって汚れをうきあがらせる
- ▶ 歯茎のマッサージができる



当てるだけでケアの統一ができる

音波ブラシ



センターでは
歯肉マッサージを目的
として使用している

音波ブラシのメリット

振動による頬や舌のマッサージ効果
によって唾液が出やすくなる



口腔内の乾燥に効果的

振動でポケット内の汚れを
浮き上がらせる



歯茎の腫れの改善に効果的

口腔ケアの手順

- ①口腔内の観察を行う
- ②口を開けすぎないように顎を抑える
(開口調整)
- ③声掛けを行いながらブラシをあてる
→奥歯から順に
拒否が強い時には中断
時間変更
- ④口腔内をガーゼで拭き取る
- ⑤口腔内用の保湿ジェルを塗る

②口を開けすぎないように顎を抑える (開口調整)



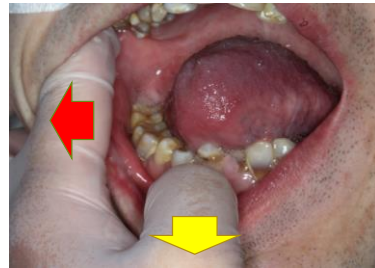
視野確保と
開けすぎ防止

指で唇を下げる

開けすぎないように
顎を抑える

視野確保

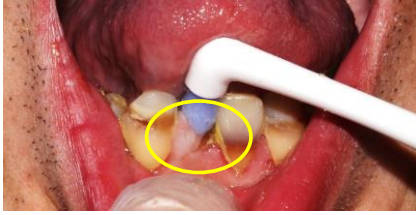
(開けすぎないように開口保持も行う)



歯のならびが悪いところは
毛先がうまく当たらない

音波ブラシのタフト型
を使うと・・・

音波ブラシの先が しっかり入る



ブラシの毛先がきちんと入り
マッサージができています

A氏の口腔ケアのポイント

- ▶ 開口調整
- ▶ 音波ブラシのタフト型を使う→前歯のみ
- ▶ 口腔内の拭き取り

ケア方法を統一するために 周知した内容

- ▶ 口腔内の現状を伝える
- ▶ 口腔ケアは、日中の受け持ちスタッフの都合よい時一回のみでよい
- ▶ 嫌がる時は中止してもよい
- ▶ 前歯のみタフト型を使用する

ケアを行って気付いたこと

音波ブラシ（歯ブラシ型）では嫌がり
拒否が強い



- ・ 開口補助を行い10カウントしながら実施
- ・ タフト型で前歯部分を集中的に実施

- 開口補助により効率よく短時間で行えた
- ポイントをしぼり、統一したケアができた
- 嫌がる様子が少なくなり、過開口も減った



結果

3週間後 （5月下旬）

- 歯茎がすっきりしてきた
- 歯ブラシを嫌がらなくなった
- 口周りに触れられるのを嫌がる
ことが少なくなった



3週間後

歯肉の色・・・改善
歯茎・・・改善
(引き締まった)





結果として全体の歯茎の色が
きれいになった



- 前歯の間の歯茎がシャープになった
- 口腔内のねばつきが減った
- 唾液がさらさらになった

最後に・・・

専門のスタッフへの相談

気になる・気付く

口腔ケアの手技を統一

ポイントを絞る・シンプルに

快適なケアを提供できる